



慢性肝疾患患者の健康行動を支える研究

保健福祉学部 看護学科
講師 山田 隆子（やまだたかこ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3418号室
Tel : 0848-60-1120 (代表)
E-mail t-yamada@pu-hiroshima.ac.jp
* @は半角に置き換えて下さい



専門分野： 成人看護学, 慢性病看護

キーワード： 慢性肝疾患, 肝移植, アルコール性肝疾患

病期や治療, 断酒継続群と比べて分析をすることを考えています。断酒が継続できている患者に共通していえることは何か、断酒が困

● 現在の研究について

これまで、慢性肝疾患から肝細胞がんを罹患した患者を対象にして、研究を進めてきました。肝疾患の原因は、多くの場合、肝炎ウイルスによる感染、アルコールの多飲などといわれています。肝炎ウイルスの罹患やアルコールの多飲が長期にわたり続くことで、一時的な肝炎から慢性肝炎へと移行します。その後慢性肝炎は、肝硬変や肝細胞がんの発症、終末には肝不全となり死に至ります。患者は慢性肝疾患から肝硬変、肝細胞がんに至るまで長い療養生活を送っています。その中で、患者は何を考えたどのように療養行動を送っているかに関心を持ち、患者に健康教育を行うための研究を行ってきました。

近年は、慢性肝疾患の中でもアルコールによる肝障害をきたした患者に焦点をあて、入院中の断酒行為の意味を明らかにする研究を行ってきました。入院中にアルコール性肝障害患者が断酒できるのは、飲酒によって自身を見失い醜態をさらしてしまったという体験や、多飲による肝不全に陥り飲めない体になっている自覚をした体験などが要因となっていることが明らかになりました。

現在は、アルコール性肝障害により肝移植（生体間・脳死下）を受けた患者を対象に研究活動を行っています。

● 今後進めていきたい研究について

アルコール性肝障害患者の対象者を増やし、

難な患者にとって、断酒を難しくしている要因は何かを明らかにしたいと考えています。そして、断酒の必要性を伝えるだけではなく、患者のおかれている状況を理解しようと努めながら、「良くなりたい」と思う患者の気持ちを高め、本来患者の持っている力を引き出せるような支援をしたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

アルコールが原因で健康障害をきたしている患者に日々接する医療者とともに、患者への支援を考える研究会・研修会の参加や一部運営に携わるなどしていきたいと考えています。また、いつか、研究ではなく患者さんのためだけに、断酒できる方法を一緒に考えることのできる療養支援の場をつくりたいと思っています。

● これまでの連携実績

病院に肝疾患患者に対する療養指導の場を作るために、複数の医師とともに研究を行っています。

また、病院に勤務する看護師とともに、慢性疾患を抱える患者さんへのケアについて、共同研究を行っています。